

平成 24年 9月 14日

地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 工学研究科物理工学専攻
氏 名 藤原裕司

活動テーマ	科学工作教室を通じた県内小中学校教員に対する理科教育啓発活動
実施期間	平成 24年 5月 1日 ~ 平成 24年 8月 26日
活動内容	<p>応用物理学会と協力して、小中学校の教員の先生方を対象とした‘リフレッシュ理科教室’を開催しました。この理科教室の目的は、先生方に簡単な工作を楽しんでリフレッシュしていただくこと、工作体験を実際の授業に活用していただくことです。そのため、安価に入手可能な材料で、簡単に工作でき、小中学校で教える理科（物理分野）の内容を含むような工作を提案させていただきました。</p> <p>今回は8月23日に開催し、30名の先生方にご参加いただきました。工作していただいた作品は、1. ゴム動力で前進・後退する一輪車、2. 糸電話と歯ブラシを使った動くおもちゃ、3. 磁石シートを使った紙相撲です。どれも非常に簡単な工作ですが、それぞれ、弾性エネルギーと慣性、振動と摩擦、磁石の反発と吸着などの概念を楽しく学べるようになっていきます。ご参加いただいた先生方から</p> <ul style="list-style-type: none">・ 理科の楽しさを子供たちに伝えたい。・ 原理を考えながらおもちゃ作りをするのは楽しかった。・ 自分が楽しむために参加しています。工作しながら科学のしくみを楽しく学習できました。・ 理科離れは教師も同じだと思う。理科好きの教師を育てたい。・ 子供たちにできたときの喜びを味わわせてあげたい。・ 理科は苦手ですが、少し好きになりました。 <p>など非常好意的なご意見をいただきました。</p> <p>また本活動の一環として、8月25日、8月26日にこども達対象の理科教室を実施しました。こちらの理科教室では楽しんでもらうこと、不思議さを体験してもらうこと目的としています。両日合計200名の小中学生が参加してくれました。</p>